

2020年 社長年頭挨拶

明治安田生命保険相互会社（執行役社長 根岸 秋男）は、年頭挨拶として、社長から全役職員に向け、メッセージを送りました。社長メッセージのあらまきは以下のとおりです。

1. 「MYイノベーション2020」は完遂に向け順調に進捗

- ・ 2019年の生命保険業界では、依然として超低金利環境が継続するなか、現在の貯蓄性商品の大半を占める外貨建て保険マーケットが、海外金利の低下を受けて縮小を余儀なくされた。また、高齢化の進展や健康寿命の延伸に向けた意識が高まるなか、トンチン性を有する保険商品や重症化予防に関する保険商品が相次いで投入された。
- ・ こうした環境において、当社は、明治安田生命3ヵ年プログラム「MYイノベーション2020」の最終年度に将来に向けた成長軌道を確保するため、さまざまな取組みを推進してきた。4月から本格展開した「みんなの健活プロジェクト」は、「ベストスタイル 健康キャッシュバック」の販売が30万件に達したほか、11月からはお客さまお一人おひとりに応じた健康増進に役立つ情報・アドバイスをまとめた「MY健活レポート」の提供を開始するなど着実に浸透・定着しており、「健康増進元年」として良好なスタートを切ることができた。個人営業分野では、タブレット型次世代営業端末「マイスタープラス」や社用スマートフォン「MYフォン」、決済端末の導入を通じて、営業活動や事務手続きを刷新。また、法人営業分野における「B to Eビジネス」の推進や、「資産運用・資産運用事務サービス」、「グループ経営管理態勢」の高度化も着実に進展している。さらに、将来の不確実性に適切に対応するため、「明治安田総合研究所」に中長期の基礎調査機能に移管するなど、調査・研究機能を強化した。
- ・ これらの取組みの結果、先日判明した2019年度「お客さま満足度調査」結果の速報値では、「総合満足度」が62.8%（前年差+1.3p t）と上昇するなど、過去最高値を記録することができた。対面によるアフターフォローに真摯に取り組んできたことの証左として、確かな手ごたえを感じている。

2. 「チーム明治安田」一丸となって完遂に取り組み

- ・ 2020年についても、超低金利環境や米中貿易摩擦の継続に加え、米国の大統領選挙など、国内外における政治経済動向の見通しは不透明であり、金融環境をはじめとする当社を取り巻く環境は依然として厳しい状況が予想される。
- ・ 3ヵ年プログラム「MYイノベーション2020」は順調に進捗しているが、完遂に向け、「チーム明治安田」一丸となって取り組んでいく。

- ・ なお、2020年は、「東京2020大会（オリンピック・パラリンピック）」が開催されるが、この国家的事業には、当社もできる限りの協力をしていく。

3. 「契約者ファースト」の経営を追求

- ・ 当社は、2004年の合併以降、お客さま志向の経営を推進するとともに、対面のアフターフォローを通じて、お客さまに寄り添ってきた。「人生100年時代」を迎えるこの令和の時代においても、「確かな安心」をお届けし、企業ビジョンである「信頼を得て選ばれ続ける、人に一番やさしい生命保険会社」を実現していくためには、「契約者ファースト」の経営を追求していく必要がある。今後とも、長期的かつ安定的な経営に努め、お客さまの生涯にわたって、対面かつ究極のアフターフォローを提供していく。

4. 4つの「大改革」によるフェーズチェンジと「二大プロジェクト」の展開

- ・ 4月からはじまる次期中期経営計画では、その成長エンジンとして、「営業・サービス」「基幹機能・事務」「資産運用」「相互会社経営」の4領域で「大改革」を進めていく。役職員一人ひとりが10年後の社会や会社を取り巻く環境をイメージしながら、次期中期経営計画で何をすべきか考えてほしい。
- ・ また、次期中期経営計画では、「みんなの健活プロジェクト」に「地域共生プロジェクト（仮称）」を加え、二大プロジェクトとして展開していく。「地域共生プロジェクト（仮称）」では、「Jリーグ・Jクラブの応援・協働や、地方自治体等との連携・協働を通じて、地域社会を豊かにする明治安田生命らしい取組みをさらに進化させていく。Jリーグについては、2019シーズンにおいて、お客さまや従業員、そのご家族を含めた観戦者数が38万人を超え過去最高となるなど、「お客さま」「地域社会」「働く仲間」との3つの絆を深めることができたものと評価している。また、この3月からは女子プロゴルフツアー大会に特別協賛するなど、スポーツの応援や支援を通じて、健康増進と地域社会の活性化に取り組んでいく。
- ・ 今後も、社会・環境が大きく変化していくが、当社は変化を好機と捉え、果敢に挑戦し続けていく。そして、新しい価値を創造し、お客さまや地域社会に提供・還元していく。夢のある未来に向かって、ともに挑戦していこう。

以上